

1月8日、『国際協力』の今後の展望を語ろう～日本とグローバル社会で今、何が起きているのか』が開催されました。本講演会はスピーカーとしてインディペンデント・ウェブ・ジャーナルの岩上安身氏をお招きし、講演・ディスカッションの2部編成で行われました。第1部の講演では岩上氏に『国際協力』を考える・行う上での歴史認識と日本社会の現状』について熱く語っていただき、第2部のディスカッションでは経済学部教授・郭洋春氏、21世紀社会デザイン研究科特任准教授・米川正子氏を交え、学生や来場者との質疑応答をしました。

第1部の講演は「政治を知らないまま国際社会に出て支援しようとする若者が多い」という言葉から始まりました。危機意識を喚起する岩上氏による講演は、メディアが伝えないような情勢・歴史情報から知識を得て、自分なりに考えることで、今私たちが直面している大きな転換期を乗り切ろうというものでした。昨今注目を集めている安倍政権と、それを取り巻く原発、日米関係、集団的自衛権、日中韓関係が主な内容でした。

まず安倍政権について語っていただきました。戦後レジームからの脱却という具体的なスローガンを掲げている安倍政権ですが、憲法の土台を成している日米安保に手をつけないことから、安倍氏による政権運営は「戦後レジームの継続・深化に過ぎない」と岩上氏は述べました。米軍が日本国内に駐留していることや、国民の関心が集まる TPP についても米国発の大資本の利益・自由を優先した規制緩和が存在していること等から、日本は国際社会において一種の足枷をされており、ある種支配下にあるとさえおっしゃいました。そういった現状が「第三の開国」と称されている TPP 問題や、米軍と辺野古の問題、更には自衛隊の国際社会における立場にも現れていると感じられます。

次に岩上氏は日中韓関係について言及しました。「歴史認識」とそれに付き纏う「責任」を重視した内容でした。慰安婦問題や領土問題を抱えている日中韓関係ですが、日本には「被害者意識」が根付いていると感じられます。その原因は我々国民にあり、メディアが発する情報を鵜呑みにしてしまうという点が致命的弱点であるといいます。歴史を紐解くと日清戦争における最多の戦死者は朝鮮人であったり、福沢諭吉の「脱亜論」などが存在していたりします。しかしこれら明治に起きた事実は志士の存在や情報隠蔽により美化され、「ひどかった時代」は満州事変以降であるという意識が国民の中にあると岩上氏は述べました。メディアリテラシーを持ち、被害者目線を捨て別の視点から歴史を再確認することを迫られました。

そして、「この先の2つのシナリオ」として、日米中関係の軍事的内容に触れました。「中国と実際に軍事衝突が起こる可能性もある」という立場に立った岩上氏の話は、私たち日本人に危機意識の無さを痛感させました。若狭湾には計14基もの原発が存在しており、

ここを攻め込まれば危機的状況は免れないという内容が強く印象に残りました。

第2部のディスカッションは主に『国際協力』に関する内容でした。

郭教授は、日本の国際協力の形がカネからヒトへ変わってきた歴史に触れた後、行動を起こす「ヒト」が政府から民間へと変わりつつある現状を明らかにしました。また政治的場面で頻繁に用いられる「国益」という言葉の捉え方が、政府と国民では全く異なることを指摘しました。そして今大切なことは、大学、NGO、国民などが考え、行動を起こし、民間の力で国際協力を行うことであると結論づけました。

続いて米川教授は、「これまで国際協力をする側にいた日本の立場が、される側になるかもしれない」と述べ、その要因は国際社会における「秘密・軍事国家」日本への不信感が高まり日本が孤立する可能性があることであるとしました。それを防ぐため、日本の海外に対する態度を改める必要があると結論づけました。

質疑応答では学生コメンテーターから、マスメディアと日本国民の関係について質問が投げかけられ、岩上氏は「日本人はマスメディアを信頼しすぎている。マスメディアは批判的に見て、情報を見極めることが必要不可欠である。」と述べ注意を促しました。また会場からは原発と軍事衝突に関する質問があり、岩上氏は「原発を多く保持している国でありながら戦争を想定していないことは危険であり、主権者である我々が考え行動しなければならぬ」と述べました。

今回の講演会を通じ、国民が受動的に情報を受け取るのではなく、能動的に行動してそれを得て、考え、行動する必要性を再確認することができました。「メディアリテラシー」「グローバル人材」といった言葉は言われて久しいですが、意識的に考える機会があまり無かった自分にとって、それらの言葉を見つめ直す良い機会となりました。そして情報源が多様化した今、メディアが伝える情報を鵜呑みにするのではなく、情報を咀嚼し自分なりに考え意見をもつことを今後意識したいと感じました。

時代の大きな転換期に生活している私たちに付いて回る「グローバル人材」という言葉。この人材には語学力やコミュニケーション能力もちろん必要ですが、国際社会に出て活動するには自らを取り巻く政治や環境における見識を持たなければなりません。そういった幅広い見識を身につけるために、様々な人に出会い、多様な話を聞ける講演会に、積極的に参加してみることも良いかもしれません。